天上はるかに

秋田高校東京同窓会会報

2016年11月
錦秋号

秋田高校東京同窓会
〒106-0032
東京都港区六本木 5-16-5
インペリアル六本木 1001
鎌田会計事務所内
TEL 03-5545-7775
FAX 03-5545-0087
http:www.shuko-ob.net/

2017年1月28日(土)

大学生との交流会 ≫ 13:00 ～
新春賀詞交歓会 ≫ 16:30 ～

もうすぐ72、という年令になって初めて同窓会に参加したという方がいた。長年自営の仕事に専念してきて今も現役。ある日届いた同窓会の案内。それまで無視して来たのだが、なぜか行ってみようかと思った、が、正直特に期待していなかった。面白くなければもう行かなければいいだけだから。ところが違った。期待するだの何だのはどうでもいいことだった。校歌を歌い応援歌を歌った時、意外にも覚えていた自分に驚き、今一緒にいる連中と同じ学校を自分は確かに出たのだという実感、そして一体感のようなものが理屈抜きに心地良かったという。糖尿の気があるにもかかわらず、その日は飲み過ぎてしまったと笑っていた。

さて、まもなく2017年。年明け後の1月28日、恒例の「大学生との交流会」「新春賀詞交歓会」を開催いたします。

＜講演者紹介＞

松野 葵さん
秋高 H14年 卒

プロ・ダンサー

秋高卒業後、新潟大学へ入学。同大学では競技ダンス部所属。大学卒業後、臨床検査技師の国家資格を生かし、首都圏の病院等に勤務。その間もアマチュアで競技ダンスを続け、2010年すでにプロとして活躍していた大学の部活の先輩からの誘いを受け、「これは今しかないチャンス！！」とプロ入りを決意。埼玉県春日部市の春日部AKIダンスアカデミーを拠点に従来やってきたラテンに加えワルツ・タンゴなどのスタンダードダンスの講師として指導に当たる傍ら、国内外の競技会に出場し活躍している。

多くの皆様のご参加を心よりお待ちしています。

※ 2017年の担当年度幹事は「7」のつく卒年のＳ17、27、37、47、57、H7、17卒です。参加を特によろしく。

開催要項

- 会　場 …… アルカディア市ヶ谷(私学会館) ＞
- 受　付 …… 12：30 ～
- 大学生との交流会 …… 13：00 ～ 16：30
- 講　演(松野 葵さん) …… 16：30 ～ 17：20
- 賀詞交歓会 …… 17：30 ～ 20：00

JR・地下鉄 市ヶ谷駅より 徒歩2分

東京都千代田区九段北4-2-25 TEL 03-3261-9921

◆ 当日会費　・一般＝8,500円　・学生＝4,000円
※ 同封の振込用紙にての前振込の場合は 8,000円(一般)です。

橋本五郎の AKITA 元気トーク

秋田高校東京同窓会 会長
橋本 五郎

ひとつのことのみに――「専心」の大切さ

尊敬する作家吉村昭さんに「一つのことのみに」というエッセーがあります。『縁起のいい客』(文藝春秋)に収録されています。吉村さんが少年の頃、お父さんが専売の煙草工場を見学して興奮して帰ってきました。当時は、袋に煙草を入れるのは機械ではなく、女性が煙草をつかんで入れていました。その女性は「パッとつかむと二十本。何度つかんでも二十本」と言うのです。それは「神業」ではないかと聞いたお父さんに女性はこう答えました。「たとえば二十一本つかむと百本もつかんだような気がしてしまう。十九本だと四、五本の感じがする」。

将棋の大山康晴名人は講演のあと控室に戻って、主催者に「今日の聴衆は○○○名でしたね」と言いました。係の人が調べたら、なんとぴたり一致したのです。どうしてわかったのですかとたずねたら、名人は「椅子が並ぶ客席は将棋盤と同じように縦、横の線で構成されているので一見してすぐわかるのです」と答えたというのです。煙草をつかむ女性と大山名人に共通しているのは、一つのことのみに専念している人の素晴らしさです。商人だった父は、商人も自分の仕事以外に気を散らしてはいけないのだと自らをたしなめようとしたのだろう。吉村さんはそう思ったと書いています。

東京都の豊洲市場の問題が浮き彫りにしたのは、巨大役所の縦割りの弊害であり、無責任の体制でした。小池百合子知事はそれを白日の下にさらしました。しかし、この問題の最も根底にあるのは、自らの仕事に本当に誇りを持っているかではないのか。ひとつのことに専心しているなら、違う方向に行ったら断固として「違う」と言うのではないのか。それはどんな職業であろうが、同じことではないのか。そうなると当然ながら、自身は日々実行しているのかと自らに跳ね返ってきて、内心忸怩たる思いにとらわれてしまうのです。

● 平成28年度 定期総会・記念講演・懇親会 報告

ご報告

平成28年6月25日(土)ハイアットリージェンシー東京で、恒例の「東京同窓会・総会」が開催された。

司会今野仁(S50卒)・田村智子(S63卒)により、最後まで楽しく有意義な時間が流れた。

秋田県民歌で始まり最後は秋高校歌を5番まで佐藤映応援団長(S60卒)の先導により声高らかに歌った。

講演は楢岡孝武氏(S46卒)の「ラグビーの歴史と秋高時代の足跡」でラグビーを通じての今までの人生をお話し頂いた。

鎌田進幹事長(S47卒)からの議題説明があり満場一致で議事が承認された。

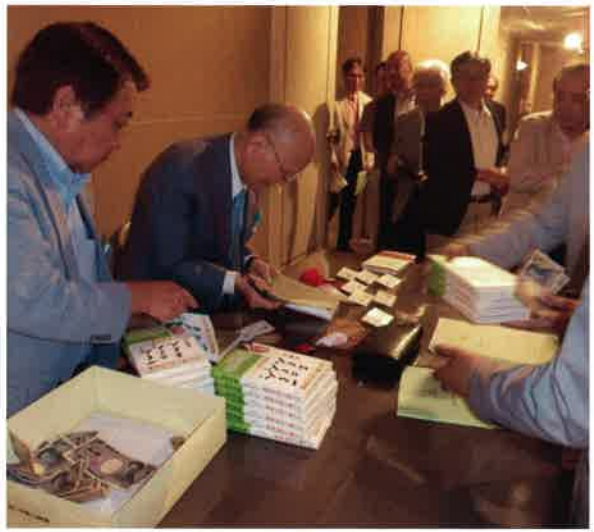
橋本五郎会長(S40卒)がお書きになった「一にも人・二にも人・三にも人」の書籍がすぐ売り切れとなった。

鈴木祥高(H12卒)ダンサーによるパフォーマンスも披露され全員の応援を頂いた。

出席者の中から何人もご登壇願い色々なお話をして頂いた。

皆一様に高校3年間の思い出が強烈に残っていて今でも忘れなれないと。

最後に大野省治副会長(S42卒)に閉会の辞を述べてもらった。皆お酒が入り気分も高揚し別れがたくなりいつも通り二次会へと流れた。



平成28年6月25日／於：ハイアットリージェンシー東京

● 寄 稿

「平成28年度

鈴木 祥高 H12卒

秋田高校を卒業してすぐに上京し、ニューヨーク、ロンドンでダンサーとして生きてきて、一昨年帰国。新しいビザの取得が上手く進まずやむなく秋田に帰郷し、気が付けばもうすぐ2年。高校以来こんなに長く秋田にいた事は初めてです。秋田にいると至る所で秋高卒業生の方々と出会います。秋高同士とわかった時のあの何とも言えない共同感。

今回、秋田での同窓会総会に出席して踊らせて頂いたご縁で、東京同窓会でも、今取り組んでいる秋田の民俗芸能とUK JAZZ DANCEのコラボパフォーマンスとして、秋田荷方節の三味線にあわせて踊らせて頂きました。ほとんどの出席者が多方面で活躍されている先輩方で緊張しましたが、終わった後に沢山の方々から激励の言葉と、12月からまたヨーロッパに戻り活動再開するためのカンパまで頂きました。普段会えない様々な年代の先輩方と直接語らい、握手をして、とても刺激になりました。この方々に負けないように頑張らないと又ここには帰って来られないと思いました。

ご支援して頂いた皆様、本当にありがとうございます。またお会いできるよう、しっかりヨーロッパで頑張ってきます。

三浦 祐介 H12卒

今回縁あって初めて総会と懇親会に参加させて頂きました。

事前に出席者は錚々たる顔ぶれの先輩方ばかりと聞いておりましたので、大変緊張しながら会場に赴きました。ところが、鎌田幹事長をはじめ皆様大変温かく迎えて下さり、まるで何年も前から参加しているような居心地の良い時間を過ごすことができました。気が付けば三次会まで参加させて頂いており、思いのほか楽しんでしまいました。

もちろん、ただ楽しくお酒を飲んでいただけではなく、第一線で活躍されている先輩方とお話できたことは大変な励みとなりました。また、3年次の担任であった安田浩幸校長先生に15年ぶりに再会できたことは非常に嬉しい偶然でした。この世代を超えた絆の強さこそが何にも代え難い秋田高校の素晴らしさであり、改めて「秋高生でよかった。」と実感した次第です。

私は現在東京都内で弁護士業を営んでおりますが、20代前半は受験勉強に追われ、就職後も想像以上に現実は厳しく、毎晩遅くまで仕事に追われる日々でした。その間故郷とも疎遠になり、なかなか自分自身を省みる余裕がありませんでした。今回OB・OGの方々と交流させて頂く中で、秋田高校という自分の中の大きな原点を再認識し、心機一転、自分の進むべき道をまた一から頑張って行こうという気持ちになりました。

毎年このように刺激的な機会が設けられるのも秋田高校ならではと思いますので、若手や同世代の方には是非とも積極的に参加して欲しいと思います。

伊保谷 徹 S59卒

思い起こすと15年ほど前、多摩地域で同業の税理士であり、野球部の先輩でもある45年卒の東海林和彦さんからお声をかけていただき、秋田高校東京同窓会に入会しました。以来ずっと毎年6月の定期総会に出席するのがやっとの名ばかり幹事で、これもまた同業の鎌田幹事長のお役に立てず申し訳なく思っております。

総会の講演では毎年幅広い分野で大活躍なさっている先輩のお話を聴くことができ、ためになる話題や感動の出来事など自分の知らない世界を知ることができる貴重な場であるとありがたく思います。今年は46年卒の楢岡先輩の講演を拝聴し、秋高ラグビー部の歴史や工業に勝っていた黄金時代のエピソードなど痛快な思いが残りました。講演だけでなく各界で活躍されている先輩や優秀な後輩の話は、自分もまだまだがんばらねばと大変刺激となります。と同時に秋高卒業生の底力のようなものを感じます。

テレビで橋本会長をたまにお見受けすると、秋田高校が頭に浮かびます。在学中なにも考えずに歌っていた校歌も、総会の最後に一同で斉唱すると歌詞の重み、奥深さに感動を覚えます。同窓会幹事の中で当時30代だった私も50代となりましたが、これからもこの同窓会の輪を広げるために微力ながら協力し、次世代を担う一人でも多くの後輩が楽しく参加できるような集まりに発展することを切に願います。

藁谷(わらがい) 宏※(かがぶ)(旧姓:利部) S57卒

10年ほど前2回出席した秋田高校東京同窓会。率直な感想は「ご高齢の方中心で、同期はおらず、楽しめない」でした。今回は同期4人が出席し、これまで一番楽しい同窓会となりました。現在53歳。「同窓会が楽しい年代」に入ったのでしょうか。

29年勤めた一般社団法人全国農業会議所(4月に社団法人化)より関連団体の公益社団法人日本農業法人協会に出向して半年。上司の会長は藤岡茂憲氏(北秋田市の(有)藤岡農産代表取締役、64)、出向元の会長は二田孝治氏(一般社団法人秋田県農業会議会長・元参議院議員、78)と両組織トップはいずれも秋田県人。時の著名人では内閣官房長官・菅義偉氏(67)も秋田県の農家出身だから、農業界は「秋田県人の時代」と言えるかもしれません。

3氏に共通するのは「胆力」と「バランス感覚」。雪国秋田の「粘り強さ」に加え、物事の本質を見極め組織を動かす「調整力」は、秋田県人の天性のように思えます。大先輩の輝かしい足跡を辿りつつ、農業法人の成長を通じた日本農業のさらなる発展のため、私も微力を尽くしたい——故郷を想い、秋田県人の自覚を高めるのも、秋高同窓会に参加する意義の一つと思っています。

※秋田高校在学時は「利部」(父方の姓)でしたが、大学卒業を機に「藁谷」(母方の姓)に変更し、現在に至っています。

穂積 文孝 S51卒

今春、秋高を卒業して40年が経ちました。防衛省航空自衛隊の幹部自衛官として学生期間も含め約36年間全国各地、米国で勤務し、一昨年、退官を迎えました。昨夏、会社社屋が同期の松山君が勤務する御茶ノ水の隣のビルに引っ越しし、総会で講演された太平洋汽船(株)代表取締役社長の楢岡先輩にご縁があってお会いすることもできました。そんな関係もあり初めて東京同窓会に参加させていただきました。

総会では、橋本会長や多くの先輩、同期、後輩の皆様が各界で立派にご活躍されているところを見るにつけ、さすが秋高生と、思いを新たにした次第です。私の秋高時代といえば後ろから数えてすぐの学業成績、きれいとはいえないラグビー場脇のプールで泳ぐだけの水泳部員。授業を抜け出し、喫茶店で煙草を吸い補導されかかったとか、そんな思い出ばかりです。けれども、自主自律の精神はあの頃から培っていたように思います。人から言われてやるのではない、自らの意思で人生を切り開いていくのだというような秋高教育を受け、曲がりなりにも今日まで歩んで参りました。

今回、多くの皆様とお話ができ、ウグイス坂を上っていた青春のあの頃に帰ったようで楽しいひと時が過ごせました。素晴らしい先輩のようにはまいりませんが、秋高OBとして故郷秋田と東京同窓会の発展に寄与しようと思う良い機会になったと思います。新参者ですが、今後ともよろしくお願い申し上げます。

定期総会・記念講演・懇親会」に参加して

荻津 郁夫 S48卒

今回は私がラグビー部1年生の時の3年生楢岡先輩の講演でした。現役時代には睨まれると震えあがらんばかりだった先輩の表情も今や柔和になられ、日本郵船で世界を股に掛けて活躍してこられた視点から、世界のラグビーの歴史に始まり、日本でのラグビー発祥の地慶応で過ごされた大学時代のエピソード、そして秋田高校時代の栄光の思い出にと話は展開していきます。優勝の岩手国体、準決勝まで進出した花園全国大会など、私が1年生として応援席から見守ったいくつもの名場面が次々によみがえります。私たちが3年生だった時に逸して以来32年ぶりに出場を果たした平成15年の花園全国大会、その応援に駆け付け苦節の時代を支えてきた各時代のOBとともに美酒に酔ったことも思い出し同窓のつながりのありがたさに思いをはせていると、司会の女性から私もラグビー部のマネージャーでしたとの告白が。彼女を囲んだラグビー部中心の二次会も大いに盛り上がったのは言うまでもありません。また会場には見慣れない長髪長身黒ずくめの若者の姿があり皆少し訝しげに思っていたところ、突然に秋田民謡をバックに会場全体を使った圧巻のパフォーマンスが始まりました。世界1周から戻って秋田に根を張りながら、ヨーロッパを拠点に秋田を世界に伝えたいというUKジャズダンサーのYOSHITAKAさん。彼は私が秋田で仕事をさせていただいている先輩の息子さん(ダンサー)と同級生との偶然も。橋本五郎会長のサイン本もいただき、世代を超えてさまざまに繋がりが広がった印象に残る同窓会になりました。秋田から世界へとネットワークがさらに大きく広がっていくことを期待します。

阿部 充 S36卒

秋田高校同窓会に集まる所以は何でしょうか。Birds of a feather flock together.（類は友を呼ぶ)の諺があるように、秋高に学んだ、「同じ者同士」の仲間意識が根底にあると思います。

私たちは、故郷、秋田から東京首都圏の坩堝に入り込み、膨大な人間との関係を造りながら、自分の生きる場を築いてきました。

地方から上京する動機は、東京に出て頭角を現し、世に出よう(出世)、名を挙げよう(功名)という心意気(野心？)に燃えて、又は、生活文化のレベルの高い恩恵を享受して、より良い生活を築こうという向上心に燃えて、という人が多いものと私は想像します。

いずれにしても、アーバンドリームを抱いて首都圏に入り、国の内外を含め、各地から集まった多様な人間の渦の中で生きていく過程における人間関係は、あくまでも、リップサービスを含めて建前的で、心の部分的な交流の域を出ません。

それに対し、懐かしの故郷、母校を同じくする人々は、特別な親近感で、方言の秋田弁で昔話をするなど、安心感を持って本音の心の交流ができ、日頃の緊張感が癒されます。

本来的には、身内感覚による癒着の弊害に陥らない事を条件に、そのような「ピュアな心」の交流による人間関係が、身近な地域社会から始まって、広域社会、国家社会、更には国際社会の範疇まで、それら社会の秩序、安寧、平和に繋がる基本的要素のように思います。

● 特別寄稿・1　就職活動を通して

法政大学デザイン工学部建築学科4年　**吉田 真奈美** H25卒

よく就職活動は運と縁などと言いますが、本当にそうだと実感することになりました。本格的に就職活動を始めたタイミングは説明会が解禁となった3月です。大学3年の12月、建築学科で設計課題に追われている中、住宅メーカーのインターンシップの選考は既に始まっていました。私はそのことを知らず、選考に参加できなかったため周囲にかなりの遅れをとっていたと思います。ですがそのとき内定者の先輩から座談会の案内をもらって伺った企業が、のちに私の第一志望となっていきました。その後、研究室の教授にも同じ企業の友人を紹介して頂いたのですが、この方が偶然にも秋田高校のOB だったのです。その後、1月の秋田高校同窓会でも同じ方を紹介して頂き、秋田高校OBのつながりには本当に驚かされました。OB訪問もさせてもらい、人事やリクルーターとは違う現場の生の声を聞かせてもらい、この企業への興味は膨らんでいきました。

3月に入り、説明会が本格化したころ、「理系就職は、むやみやたらに受けてもしょうがない。」先輩から言われていたものの、心配性の私は中小企業も含め最初30社ほど説明会に行き、エントリーしていました。しかし、説明会や一次選考をしていく中で、興味のない企業に時間を割くことがいかに効率が悪いか気づかされたのです。1日の中で3社の面接を受けたことがあったのですが、一つ一つの企業に対しての分析が甘くなり、まったく力を出し切れませんでした。そこからは考え方を一新して、説明会や座談会を通して本当に行きたいと思う企業を最終的には2社まで絞っていました。極端かもしれませんが、私の場合これによって設計作品の資料の質の向上・プレゼンテーション練習にかなりの時間を使うことができ、合格につながったと思っています。

理系の学生でしたら、本格的に説明会が始まる前に自分の研究内容をまとめておくことをおすすめします。面接に使えるのはもちろんですが、これにより自分が何をしたいか、企業の事業内容や方向性と合っているのか判断する良い材料となるからです。また、説明会で話を聞くときは、人事の方の雰囲気(優しそう、体育会系、はきはきしているなど)やその説明会が退屈だったか楽しかったか、そんな些細なことをメモするようにしていました。あくまで私の主観的な考えなのですが、社風を知るときこのメモはかなり役立ってきます。「社風を教えてください」という質問に返ってくる応えはどこの企業も大体一緒ですし、悪いことは言いません。用意した回答を述べているからそうなるのは当然ですが、自分の主観的なメモの方がありのままの会社の雰囲気に近いと思いました。

最終的には第一志望である住宅メーカーから内々定を頂くことができました。もちろん企業研究・面接対策は入念にしていましたが、運と縁が手助けしてくれたと思います。様々なご縁、そして高校OBのつながりには本当に感謝しています。

平成28年大学生との交流会の様子(1月23日開催)

特別寄稿・2

「福島 生きものの記録」4作目を撮って

映画監督 岩崎 雅典 S34卒

ここのところ、故・菅原文太さんの伝言が胸に重くのしかかっている。
いわく「どんどん続けてください。これから福島では、いろんな問題が出てくると思う。だから、カメラを回しておかないと・・・」
まさにその通り、現場を訪れる度に新しい現実に直面する。その都度慌ててシナリオを軌道修正。1作1作、どうにか作ってきたが、文太さんはそんな私の映画づくりのスタイルを最初から喝破していたようだ。だからあんなに優しい言葉で励ましてくれたのだと、いまさらながら脱帽。

シリーズ4のテーマは“生命(いのち)”。実はこのテーマは5作目にと密かにあたためていたものだ。が、現実は生易しくはなかった。生と死が日常の中に飛び込んでくる。白昼、人を恐れる事を知らない若いイノシシが目前に2頭。そのイノシシを駆除する地元ハンター。と思うと、無人の道路を、わがもの顔で跋扈するニホンザル。一方、無惨にも車に轢かれる動物たちの数々。イノシシの子どもウリボウ、タヌキ、アナグマなどなど。いわゆるロードキル。
復興のために激しく行き交う車の犠牲者だ。

あのとき、放射能は全ての生きものたちに降り注いだ。一木一草。鳥・獣・虫・魚。そして人間も被ばく。放射能汚染問題は、つまるところ“いのち”あるものたちの問題だ。これまで、誰も見たこともない、経験したこともない原発事故がこの日本で起きてしまったのだ。これからも逃げずに、向き合うしか手がないだろう。

都内での上映会の様子(2016年7月)
群像舎HP<http://gunzosha-july.tumblr.com>より

同期会だより

昭和39年卒 東京同期会

平成28年9月12日に昭和39年卒業『39会東京の集い』世話人会が行われ17名が参加した。
「いつもの連絡幹事」阿部君が毎回≪食べログ≫の検索でめったに行けそうもない、珍しくて、うまくて安い店を設定してくれる。今回は四ツ谷の『美食倶楽部』というところ。アジア風料理、中華風、和風もあり、多国籍料理というか、無国籍料理というか、個性的な料理に舌つづみを打った。
さて、我々39会は、戦後日本の歴史とともに70年を歩み今、古希を過ぎ、それぞれが一応は平穏な暮らしをしているらしい。ほとんどの人は現役の仕事は退いているので、先ずはやはり病気の話から入る。しばらく遠ざかっていた人が大病を克服してまた一緒に飲めるのは本当に

昭和42年卒 東京同期会

今年も昭和42年卒東京同期会が10月1日(土)に開かれました。第1部(会場：文京シビックセンター)は平成3年(1991年)から平成27年(2015年)まで大館市長を務めた同期生・小畑元さんの「大館市長24年をふりかえって」の講演でした。
小畑さんは東京大学を卒業し建設省に勤めたあと、政治を志して、平成3年に大館市長に就任しました。当時の大館市は、鉱山が衰退し企業撤退が相次いだうえに、道路や上下水道などのインフラ整備も立ち遅れ、人口減に加えて税収も落ち込むなど危機的状況にありました。
このため小畑さんは、企業を誘致して働く場を確保する一方、人口減に歯止めをかけるため大学設置も働きかけたり、大館再建を最重点に取り組みました。小畑市政で全国的に注目されたのは閉山が相次いだ鉱山の精錬技術を活用した廃棄物処理でした。大館は“都市鉱山”といわれる廃棄された携帯電話などから希少金属を取り出す国内有数の拠点となったのです。また誘致企業が近隣の問題に悩んでいたとき、誠意をもって仲裁に取り組んだ結果、新たな投資に結びつけた事例なども紹介してくれました。さらに大館が何回か大火に見舞われた教訓から、上下水道や道路の建設整備なども大きな課題であったことなど、24年間の市政をふり返って興味深く語ってくれました。

S39, S42 東京同期会

二木　猛　S39卒

うれしい。あと何年、皆で元気に飲めるのかが話題となる。

趣味の世界ではセミプロなみになっている人もいる。ゴルフ、テニス、ダンス、囲碁、カラオケ等々。老人会、町内会やサークル活動の花形スターになっている人も多い。自慢話を聞いていると終わりがないので、酒を勧めて口封じをする。

地域でのボランティア活動に力を入れている人もいる。四年後のオリンピックで外国人の道案内をやりたいという人もいる。

ちょうど高校を卒業して上京した年が東京オリンピックの年であり、あれから半世紀以上が経った。次の東京オリンピックを秋高39期生はどのように迎えるだろうか。

畑山 康幸　S42卒

講演の最後を、市長の仕事とは結局「おのれを修めて世のためつくす」(校歌4番)ことにつきるのではないか、と結んだときには会場から大きな拍手がおきました。

同期生からは大館での小畑さんの取り組みは「地方創生のお手本」「地域再生のヒントが満載」「ぜひ本にまとめて全国に発信して欲しい」などの声があがりました。

第2部は会場を水道橋駅近くのホテルメトロポリタンに移しての懇親会。同期生は全員が“高齢者”のはずにもかかわらず(?)、元気に仕事を続けたり社会貢献をしており、みなさん活動的なことが印象に残りました。仙台から駆けつけてくれた同期生もいたものの参加者が20人に達しなかったのは残念でした。

ところで、恒例の今年の「ノーメル賞」は該当者なし、と選考委員会から連絡がありました。来たる平成29年(2017年)は秋田高校卒業50年という記念すべき年です。来年こそは「ノーメル賞」受賞者が複数でるように、これからも秋田のお酒を飲んで、故郷の活性化にもつなげ、さらに世のためにつくしたいものです。

● 支部だより

秋田高校同窓会 宇都宮支部

宇都宮支部長　**丸山　豊**　S42卒

宇都宮支部は平成6年3月、正式に支部として発足した。それ以前は、昭和55年頃栃木秋田県人会に集まった会員の中から自然に同窓生の数人が集まり、何となく宴会を開くようになったのがきっかけでした。その頃は情報も少なく、7～8名前後がやっと集まれる程度でした。母校が甲子園に出場する時に臨時に集まり、応援方々お酒を飲みながら気勢を上げるという形で推移しておりました。

同時進行のような形で県人会活動が活発になり、同窓会も、少し大掛かりにしたいということになり、正式に宇都宮支部として承認を頂いたのが平成6年でありました。支部創設に尽力を頂いたのが、渡部謙氏(S17卒)、鷲谷澄夫氏(S20卒)お二人でした。鷲谷宇都宮支部長を筆頭に、最盛期には約80名程に会員数を増やし、その後毎年母校から同窓会長、事務局長のご列席を頂き、宇都宮支部総会を開催しておりました。

平成22年秋田県人会が創立30周年を迎え、盛大に記念祝賀会を催し、同窓会も続けとばかりに準備を進めていた正にその時、お盆の時季、相次いで渡部、鷲谷両氏の訃報が飛び込んできました。当時副支部長を務めておりました私は、あまりの出来事にショックが隠せませんでした。１週間のうちに二人のかけがえのない先輩を失うなど夢にも思いませんでした。亡くなられる４～５日前電話で同窓会の日時を打ち合わせていたのですが、鷲谷支部長の返事は、「今、少し調子が悪いのでまもなく回復する。ちょっと待ってくれ。」

その後栃木秋田県人会、同窓会宇都宮支部長共私が後任として仰せつかっていますが、能力の無さが災いし、支部長として会員の皆さんをどのように参加して頂けるのか結論を出せないままで6年が過ぎてしまいました。

県人会は35周年を越し、同窓会宇都宮支部も、県人会と共催としてお茶を濁しております。記念イベントは大盛況を博しておりますが、まだ宇都宮支部の曇天は続いています。

そろそろ天から声が届きそうです。「調子が戻ってきたようだ。同窓会の準備にかかってくれ！」

この投稿がきっかけとなり、支部復活の機運が見えてきたような気がします。

秋田ふるさと県人会まつりの様子

● 平成28年度／会費納入者一覧

平成28年4月1日～平成28年9月30日 現在

昭和17年	園部 俊雄
昭和18年	高橋 郁夫
昭和19年	宮川 豊
昭和20年	大友 英一
昭和20年	小玉 保次
昭和20年	清水 高義
昭和20年	本間 省
昭和21年	江見 正民
昭和21年	那小屋 豊
昭和22年	加藤 三朋
昭和22年	舩木 清治
昭和23年	明石 康
昭和23年	小野寺 正周
昭和23年	菅原 寛治
昭和23年	星野 恒雄
昭和25年	荒井 献
昭和25年	神 泰雄
昭和25年	菊池 巌
昭和25年	中崎 致和
昭和26年	五十嵐 泰弘
昭和26年	小熊 巌
昭和26年	那波 直司
昭和27年	石山 喜章
昭和27年	加藤 明男
昭和27年	佐々木 清
昭和27年	佐々木 長雄
昭和27年	雫石 衛夫
昭和27年	高橋 恒雄
昭和27年	三矢 慶三
昭和28年	大賀 啓三
昭和28年	佐竹 義信
昭和28年	瀬下 鉄五郎
昭和29年	伊東 貞夫
昭和29年	武藤 實
昭和30年	秋山 文平
昭和30年	大塚 正民
昭和30年	岸 武男
昭和30年	佐藤 敬幸
昭和30年	澤潟 明
昭和30年	薄田 耕二
昭和30年	高橋 捷郎
昭和30年	船木 孝雄
昭和31年	相場 三郎
昭和31年	伊勢 諒吾
昭和31年	大本 香津子
昭和31年	佐々木 行
昭和31年	佐藤 公隆
昭和31年	高橋 壽夫
昭和31年	中川 信夫
昭和31年	林 博
昭和31年	町田 睿
昭和31年	渡邉 徹
昭和32年	男鹿谷 和美
昭和32年	栗林 弘
昭和32年	戸嶋 成忠
昭和32年	松田 祥男
昭和33年	今野 昭
昭和33年	大平 温
昭和33年	熊谷 光太郎
昭和33年	佐藤 広
昭和33年	高橋 紀夫
昭和34年	岩崎 雅典
昭和34年	佐藤 宏二
昭和34年	高橋 恒松
昭和34年	武藤 良孝
昭和34年	山田 僖子
昭和35年	梅崎 克己
昭和35年	小泉 忠一
昭和36年	伊藤 則昭
昭和36年	柏木 征彦
昭和36年	佐々木 毅
昭和36年	佐藤 正純
昭和36年	須磨 洋次郎
昭和36年	田口 平治
昭和36年	西野 義久
昭和36年	村山 公士
昭和36年	森川 毅
昭和36年	米澤 健一
昭和37年	伊藤 清信
昭和37年	鎌田 昭憲
昭和37年	鎌田 稔
昭和37年	小林 誠
昭和37年	柴田 捷司
昭和37年	寺門 広輝
昭和37年	細谷 勝幸
昭和38年	伊藤 博康
昭和38年	佐々木 博章
昭和38年	鈴木 宣正
昭和38年	千葉 邦雄
昭和38年	山本 均
昭和38年	湯澤 邦彦
昭和39年	明石 貞一郎
昭和39年	葛西 滋
昭和39年	桑名 斉
昭和39年	佐々木 偉義
昭和39年	佐藤 二郎
昭和39年	高橋 理輔
昭和39年	高村 國男
昭和39年	原田 幸雄
昭和39年	二木 猛
昭和40年	鎌田 政朋
昭和40年	佐々木 唯夫
昭和40年	佐藤 三郎
昭和40年	中西 祥子
昭和40年	橋本 五郎
昭和40年	山田 義昭
昭和41年	板澤 幸雄
昭和41年	大槻 幸一郎
昭和41年	加藤 貢
昭和41年	佐藤 和夫
昭和41年	猿谷 彰
昭和41年	成田 憲明
昭和41年	緑川 稔秀
昭和42年	大野 省治
昭和42年	大森 正高
昭和42年	奥村 茂
昭和42年	清水 光雄
昭和42年	那波 一寿
昭和42年	畑山 康幸
昭和43年	金田 勝年
昭和43年	神坂 光
昭和43年	佐々木 博和
昭和43年	進藤 孝生
昭和43年	銭谷 眞美
昭和43年	田村 慶則
昭和43年	西岡 清一郎
昭和43年	松尾 正
昭和44年	五代儀 俊悦
昭和44年	老松 秀明
昭和44年	尾形 均
昭和44年	高橋 裕次郎
昭和45年	東海林 和彦
昭和46年	佐々木 孝子
昭和46年	楢岡 孝武
昭和46年	成田 裕一
昭和46年	藤川 長敏
昭和46年	前川 仁
昭和46年	三浦 幸雄
昭和47年	赤平 真樹雄
昭和47年	鎌田 進
昭和47年	佐々 誠一
昭和47年	田口 博視
昭和47年	中谷 多佳子
昭和47年	三浦 明範
昭和48年	大橋 朗
昭和48年	荻津 郁夫
昭和48年	榊 純一
昭和48年	東海林 豊
昭和48年	菅埜 誠
昭和49年	白石 好
昭和49年	高橋 伸
昭和49年	武田 啓介
昭和49年	舘山 英昌
昭和50年	網干 博文
昭和50年	熊谷 忠志
昭和50年	今野 仁
昭和50年	清野 多賀子
昭和50年	平野 春夫
昭和50年	牧野 一彦
昭和50年	渡辺 正剛
昭和51年	伊藤 昌紀
昭和51年	穂積 文孝
昭和51年	松山 光治
昭和52年	伊藤 博基
昭和52年	鈴木 久彰
昭和52年	寺門 日出男
昭和54年	小柳 宏
昭和54年	齋藤 頼太郎
昭和54年	佐藤 克有
昭和55年	有路 直樹
昭和55年	伊藤 敬
昭和56年	島本 道夫
昭和56年	菅原 一彦
昭和56年	瀧澤 ゆかり
昭和56年	水沢 雅人
昭和56年	百瀬 和
昭和57年	江口 満
昭和57年	新藤 礼誠
昭和57年	長嶋 直哉
昭和57年	藁谷 宏
昭和58年	青山 卯女
昭和58年	阿部 充
昭和58年	岩切 直子
昭和58年	工藤 亨
昭和59年	伊保谷 徹
昭和59年	佐々木 良枝
昭和59年	諸井 政典
昭和60年	佐藤 映
昭和60年	冨樫 真
昭和60年	西尾 薫
昭和60年	松永 敦
昭和62年	齊藤 敬
平成03年	梁田 融
平成04年	菊地 達也
平成04年	佐藤 健太郎
平成05年	土井 英司
平成06年	柳澤 奉亨
平成08年	伊藤 正寛
平成09年	伊藤 貴文
平成09年	神谷 了
平成11年	佐々木 孝広
平成12年	三浦 祐介
平成13年	間宮 恒明
平成16年	高橋 範慈
平成23年	山中 佑美

ご協力に感謝いたします

会費納入のお願い

本会の運営は、会員の皆さんからの会費によって支えられております。毎年度の会費の納入をよろしくお願い致します。
このページには本年度の会費納入者を掲載しております。
会費が未納の方は、**本会報同封の郵便振込用紙にて、年会費3,000円のお振込みをお願い致します。**
今年度会費納付済み方に重複して振込用紙が同封されている場合は、申し訳ありませんが、破棄してください。
郵便局の口座番号は次のとおりです。

00150−0−353596
「秋田高校東京同窓会」

● 同窓会本部事務局だより

本部事務局長 佐藤 英明 S46卒

今年のノーベル医学・生理学賞に福岡高校OBの東京工業大学　大隅良典博士が受賞しました。日本人の3年連続の受賞は大変うれしいニュースでした。

実は、この発表の10日ほど前に、全国紙の新聞社の秋田総局から、その社の本社科学部の情報で同窓生が医学・生理学賞の有力な候補になっているので、その予定稿を書かなければいけないので協力して欲しい旨の依頼が学校をとおしてありました。

新聞社には、それなりの情報を提供しましたが、担当副会長や学校とも相談し、受賞が決定したときには、PTAとの共同で、校舎正面に「祝ノーベル賞受賞」の横断幕をつけるということになりました。看板屋さんから見積もりをもらったり、コメントの準備をしましたが、その間に、もう2つの新聞社からも同じような情報が入ってきました。「受賞はどのようにして知るのか」とか、「受賞したとしたら、どんな対応をするのか」などなど、受賞が非常に濃厚なような雰囲気の電話取材もありました。

当日、所用で事務局にいらした常置委員長さんとテレビを見ていましたが、ニュース速報は、残念ながら同窓生の受賞ではなく、大隅博士の受賞を伝えるものでした。

しかし、同窓生が有力な候補者になっただけでもすばらしいことだと思います。来年以降の受賞を待ちたいと思っています。ちなみに、この方は東京同窓会の会員です。

● 幹事長だより

東京同窓会幹事長 鎌田 進 S47卒

毎年この時期、自然災害と大きな出来事に心が惹きつけられます。今年は多くの台風が日本列島を縦断しました。特に北海道には思ってもみないような傷跡を残しました。台風の行き先が定まらず「出戻り台風」などと言われた台風が一番被害を大きくしました。台風は何故か日本が大好きなようで、必ずカーブして日本という島を駆け抜けていきます。

そんな中でも嬉しいことがあり、3年連続日本からノーベル賞の受賞者が出ました。今年は大隅良典教授が受賞しました。嬉しい限りです。

4年に1度の今年はリオでのオリンピックがあり、日本勢の活躍に期間中はテレビにくぎ付けになりました。4年後の東京オリンピックが待ち遠しい気がしています。しかし今その東京が築地の豊洲移転問題で揺れ動いていて今後が気になるところです。4年後の東京オリンピックに影響しなければよいなと誰しも心配しています。

さて、我が東京同窓会は毎年賀詞交歓会を開きます。平成29年1月28日(土)アルカディア市ヶ谷にて行います。多くの方の参加をお待ちしています。

秋高同窓生よ来たれ!!